

(パネルディスカッション)

学術雑誌をめぐる諸問題

ー重複雑誌交換、分担購入、電子ジャーナル・コンソーシアムの活動ー

NPO 法人日本医学図書館協会総務担当理事
東京慈恵会医科大学 学術情報センター
北 川 正 路

単一の図書館において、利用者が必要とするすべての学術雑誌を購入して保管することは、予算あるいは収納スペースの制限により不可能である。本協会では、各館の不足を補うための加盟館間の協力として、相互貸借や重複雑誌交換などの活動を進めてきた。また、最近では、雑誌価格の上昇や電子ジャーナルの普及への対応といった問題も生じ、分担購入や電子ジャーナル・コンソーシアムなどの取り組みも始められた。

本パネルディスカッションでは、学術雑誌をめぐる諸問題に対する活動例として、重複雑誌交換、分担購入、電子ジャーナル・コンソーシアムの3点について現状と問題点を報告する。

重複雑誌交換については当協会創立初期から検討されていたが、現在の方法は1976（昭和51）年度から継続されており、各館での欠号の補充に活用されている。

分担購入は、国内の図書館での所蔵が望まれる外国雑誌の購読・保管を加盟館間で分担していく方法を検討するために、1998（平成10）年度に開始された。しかし、各館の購読誌決定は各館の所属機関の方針に基づくため、本協会内での割り当てを決めることが困難となっている。

電子ジャーナル・コンソーシアムは、電子ジャーナルを複数館で購入することにより有利な条件で契約することを目的としており、日本薬学図書館協議会と共同で各出版社との交渉を進めている。電子ジャーナルのコンソーシアム契約は他団体でも実施されているが、保健・医療分野の図書館活動を対象としているという本協会の特徴を反映した内容となることが考慮されている。

以上3点のほか、雑誌問題を考える上で避けることのできない問題として、これまでの総会でも取り上げられてきたが、大手商業出版社による学術情報流通の寡占化が挙げられる。この問題への取り組みについても触れたい。

参加者の皆様から広範なご意見をうかがい、今後の活動について考えることができたなら幸いである。